

企画情報部

- 1 課題名 くろしおふれあい講座
- 2 区 分 県単
- 3 期 間 平成18年度～平成20年度
- 4 担 当 企画情報部(小久保友義・木村創・武田保幸・田所恵子・田中千秋)
- 5 目 的
一般市民を対象に、和歌山の海、さかなおよび漁業について話を聞くだけでなく、見て、触れて、味わう「くろしおふれあい講座」を開設し、漁業への理解と認識を深めるとともに水産物の消費拡大を図る。
- 6 成果の要約
 - (1) コースの設定
 - ア 体験コース(一般公募)
水産試験場の漁業調査船「きのくに」への乗船(海の調査体験)、定置網などの漁獲物の分類(さかなの分類体験)及び魚を材料にした料理(海の幸料理体験)、加工(海の幸加工体験)のほか、本年度は海藻の分類(海藻の分類体験)を追加設定した。
 - イ 臨時開催
小中高等学校の総合的学習、中高等学校の修学旅行での現地研修、その他一般団体等からの申し込みにより、前記コース(海の調査体験を除く)を随時開催。
 - (2) 成果の概要
 - ア 体験コース(一般公募)
「海の調査体験」は8月6、8日に実施し、漁業調査船に乗船した後、プランクトンネットを用いてプランクトン等の採集などを行った。その後、採取したプランクトン等を顕微鏡で検鏡し、スケッチを行った。参加者は26名であった。
「さかなの分類体験」は7月29日、8月26日に実施し、串本町檜野地区の定置網で漁獲した魚類を図鑑等で種類を検索した。参加者は44名であった。
「海の幸料理体験」は7月1日に実施し、東牟婁郡のおさかなママさんを講師に、地元産の魚・海藻を使用して様々な料理と試食を行った。参加者は17名であった。
「海の幸加工体験」は8月19、28日に実施し、寒天や魚の干物作りを行った。参加者は25名であった。
「海藻の分類体験」は8月1、11、20日に実施し、串本周辺で採取した海藻を図鑑で種類を検索した後、海藻のパウチを作成した。参加者は15名であった。
なお、各コースとも一般家庭の家族単位での参加が主であった。
 - イ 臨時開催
「くろしおふれあい講座」の臨時開催は、体験コースを主体に随時行った。参加者は新宮や串本や田辺周辺の小学生を中心に、大阪の中学生、高校生、一般、県政バス、クラブツーリズム(県観光地地力養成事業)による一般公募(名古屋)など1,012名であった。
なお、今年度「くろしおふれあい講座」の参加者の県内外の内訳は、県内が749名、県外が263名であった。
- 7 成果の取り扱い
 - (1) 成果の普及
該当なし
 - (2) 成果の発表
特に無し